

恵庭市総合計画 市民まちづくりワークショップの概要

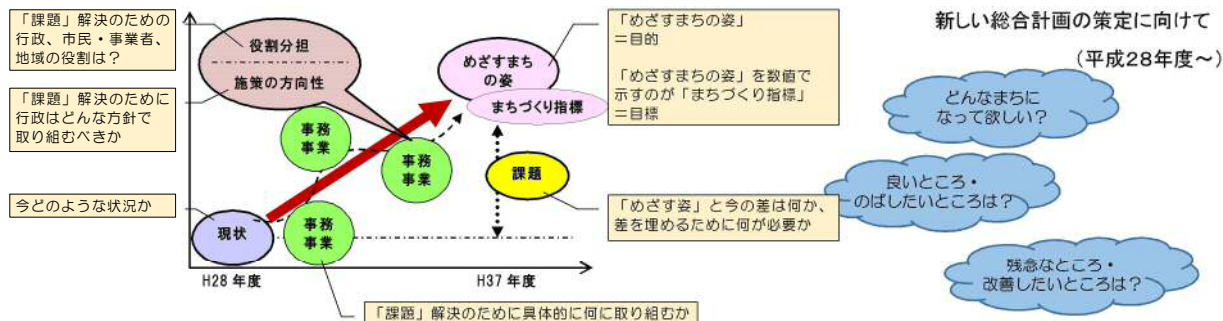
6月19日(木)を第1回目として、約1か月の間に計4回のワークショップを行い、第5期 恵庭市総合計画に向けて、市民目線で、「どのようなまちになってほしいか」「恵庭市の何を活かしていくべきか」「恵庭市の何を克服していくべきか」などを議論し、提言します。

ただし、少子高齢化がますます進む今後の社会において、恵庭市の財政も厳しくなっていくことが予想され、これまでのような「あれもこれも」ということは今後10年では難しいと思われます。

そのような社会情勢を踏まえた上で、第2回目以降、「安心・安全」「希望と活力」「子どもの未来」の各部会に分かれた議論を行い、各分野において、具体的に何をキーワードに、どのようなことに重点的に取り組んでいくべきなのか、市民の意見をまとめるに至りました。



ワークショップの様子



回/時期	場所	テーマ	内容
第1回 6月19日(木)	市民会館 2F 大会議室	恵庭のまちって住みやすい？	・恵庭市の状況説明 ・ワークショップのねらい&進め方の確認 ・10年後の幸せな生活の姿とは？
第2回 6月26日(木)	市民会館 2F 中会議室	恵庭のセールスポイント！ 残念なところ	・恵庭市の「強み」「弱み」を洗い出そう ・お互いの意見を確認し合おう ・どの「強み」「弱み」を重視しますか？
第3回 7月3日(木)	市民会館 2F 大会議室	市民にできること、 行政にできること	・重視していく分野・キーワードは？ ・継続していく市民活動は？ ・市民としてできることは？ 行政は？
第4回 7月9日(水)	市民会館 1F 第2会議室	みんなの意見を提言書に！	まとめ

部会とその担当分野

①安心・安全部会

防災

防犯

福祉

保険
・医療

人材
育成

行政
サービス

+その他

②希望と活力部会

商業

農林業

工業

経済

観光

都市
基盤

協働

市民
自治

+その他

③子どもの未来部会

子ども

教育

文化

スポーツ

生活
環境

自然
環境

+その他





恵庭市の「強み」と「弱み」（活かしたいこと／改善したいこと）

第2回及び第3回ワークショップのまとめ

(第5期) 恵庭市総合計画

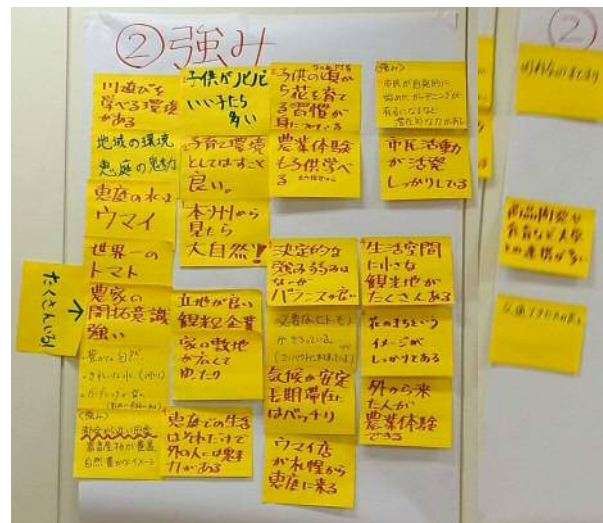
第2回目以降、部会ごとに、部会の守備範囲の中で話し合いました。

第2回目には、第1回目に共有した、目指す「まちの姿」「生活の姿」を踏まえながら、恵庭市の「強み」「弱み」を洗い出し、「恵庭市の魅力として何が活かせるか」「恵庭市をより魅力あるまちとするためには何が足りないか」について掘り下げていきました。

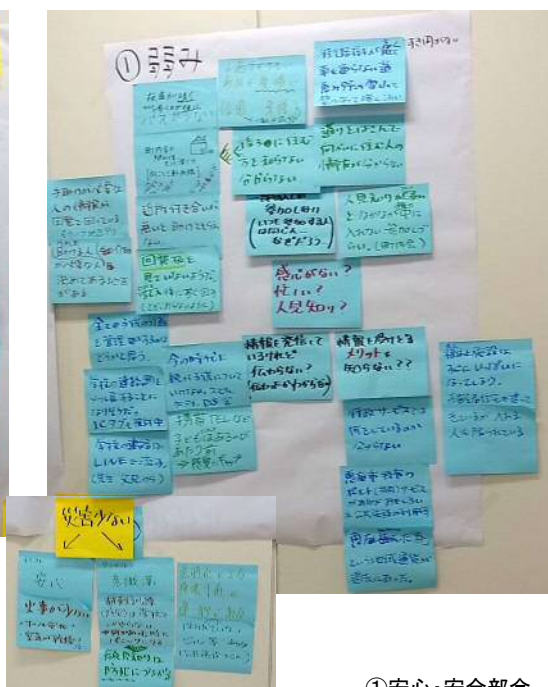
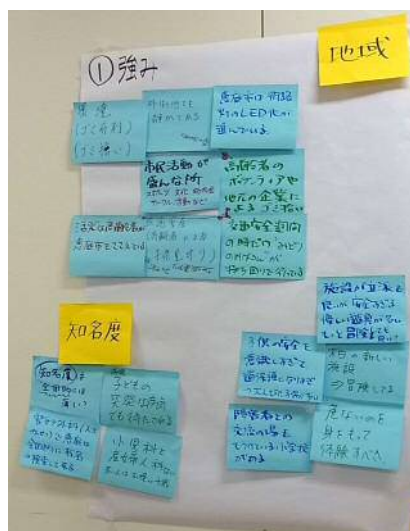
- 「強み」: 活かしたいこと、自慢したいこと、住んでいて良かったと思うところ
- 「弱み」: 改善したいこと、残念なところ、本当は強みになるようなこと

新しい総合計画の策定に向けて

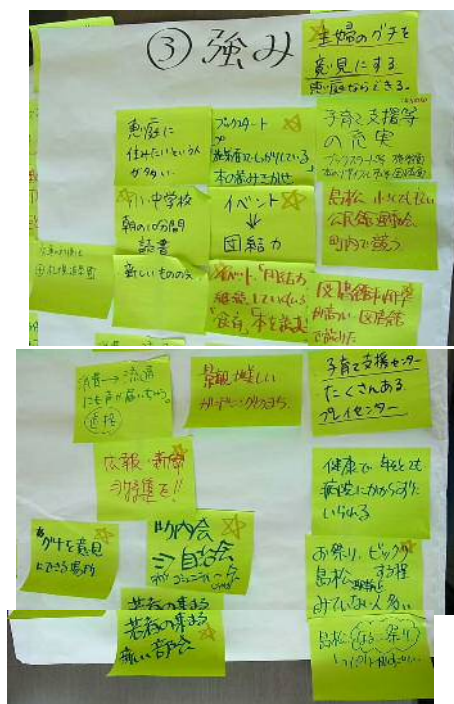
(平成28年度～)



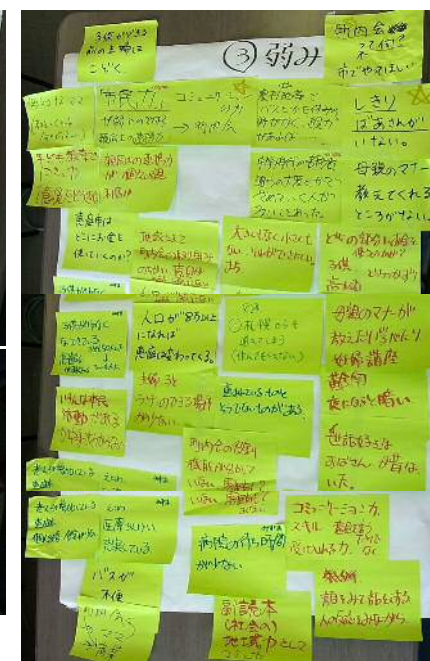
②希望と活力部会



①安心・安全部会



③子どもの未来部会



部会	部会担当内容	第2回WSの議題	
		強み	弱み
①安心・安全部会 保健・医療・福祉・防災・行財政など	防災	火事はボヤ程度が数件あるだけで比較的少ない（オール電化住宅が多いのか、空気が乾燥しているのか）	老朽化による損壊寸前の建物がある（公共施設は大丈夫）
		災害は少ない。（樽前山の噴火が川の氾濫がありうるが、今まで経験していない）	防災の意識が薄く、避難（防災）訓練も学校の児童しかやらない
	防犯	恵庭市は街路灯のLED化が進んでいる	何か災害があったときにはパニックになるだろう 人通りも車も少なく、夜道が暗くて一人で歩くのが怖い 街路樹が隙間無く生い茂っており、見通しが悪い 冬の雪山も、壁になって暗くて怖い
		高齢者の方々が児童の登校の見守りを行っている。（地域差あり）	町内会の関わりをもっと深く持つべきだ「向こう三軒両隣」 回覧板の回し方を考えて欲しい（向かいに住む人は顔は分かるが、名前がわからない。後ろに住んでいる方の顔を知らないが、名前がわかる） →顔見知りには防犯につながる
		町内会の回覧板で介助が必要な方の情報が周知されており、それを介助出来る人を決めている地区がある。	
	福祉		老人福祉施設はすぐいっぱいになるため、高齢者住宅も建設されてきているが、入れる人も限られている
		公共の子育て支援施設は立派 柏地区に出来る新しい施設は子供にとって冒険出来るものが多く、期待出来る。	公共の子育て支援施設は、子供が遊ぶには遊具が安全すぎてつまらない。もっと冒険出来るものでも良いのではないか
	保健・医療	恵庭市の整形外科（人工関節）は有名	全国から恵庭市の整形外科を利用する際に、「恵庭市」を検索して来院している 小児科と産婦人科は少なく、若い人は札幌か千歳へ通院している 子供の突発的な病気でも待たされる
		—	—
	人材育成	—	—
	行政サービス	以前、恵庭市で「恵庭だ券」という地域通貨があった 恵庭市の公共施設を利用するともらえるといった、ポイントサービスがあれば面白い	行政サービスは何をしているのか良く知らない 恵庭市のホームページも分かりづらい 全国的な知名度がない
		ゴミの分別が細かくキチンとなされている（環境への配慮） 高齢者のボランティアや地元企業によるゴミ拾いも行われている スポーツ、文化、町内会、サークル活動などによる市民活動が盛んだ	
	その他		忙しいのか人見知りなのか、町内会に関心が無い方が多い 町内会の活動は、一部の人しか参加せず、いつも参加する人は同じだ 町内の情報を発信しているけれど伝わらない 町内で流している情報を受け取るメリットを知らない 町内会の活動は、なかなか参加しづらい感じがある 子供は携帯やスマホ、DSの危険性が分からない 昨今では、学校やPTAの連絡網もメールやLINEで行われており、登下校通知用のICタグの導入を検討しているとも聞く 今の時代の情報機器に、親たちがついていけない 子供の安全を意識しすぎて過保護になりすぎ →大人びた子供が多い



部会	部会担当内容	第2回WSの議題	
		強み	弱み
②希望と活力部会 都市整備・産業・観光・コミュニティ・市民協働・移住定住など	商業	美味しい飲食店が札幌から移転してくる	生活している場と店舗等が離れている 車がないと不便 こだわりの品は手に入らない 農家をサポートする力が弱い 特産物という割には「えびすかぼちゃ」は弱い 特産物にインパクトがない
	農林業	農家の開発意識や開拓力が強い 農畜産物が豊富	
		子どもの頃から農業体験が出来る	
	工業 経済	—	工業用地は売れる土地が残っていない —
	観光	生活空間に小さな観光地がたくさんある	案内板が少ないから行き方がわからない 観光客を回遊させるしくみがない 宿泊施設が少ない
		えこりん村に「世界一大きなトマトの木」がある 農業体験が出来る 都会から近い田舎	
	都市基盤	「花のまち」というイメージがしっかりある	田舎と言えるほどのロケーションでもない 都会の人を呼べるほどでもない 暮らしている側からすると実感がない 街路樹や花壇の状態が酷い 拠点を結ぶ交通が弱い コンパクトシティだけど3つに分かれている
		交通アクセスが良い	
		家の敷地が広い 立地が良い 必要なヒトやモノが揃っている 本州から見たら大自然 気候が安定している(災害がなく、暑すぎず寒すぎず) 水がきれいで美味しい	
	協働	商品開発や食育など大学との連携が多い 市民活動が活発でしっかりしている 市民に潜在的な力がある(自発的に行ったガーデニングが有名になった) 町内のまとまりがある	若者が集まれる場所がない 恵庭、島松、恵み野が十分に機能していません、散在している
	市民自治		
	その他	決定的な強みや弱みはないが、バランスが良い 子育て環境が凄く良い のびのびした良い子どもが多い	子どもと高齢者がふれあえるイベントがない PRが下手
			市民が恵庭を知らない 恵庭の良いところに市民が行かない、使わない 素晴らしいことを当たり前だと思っている



恵庭市の「強み」と「弱み」（活かしたいこと／改善したいこと）

第2回及び第3回ワークショップのまとめ

部会	部会担当内容	第2回WSの議題	
		強み	弱み
③子どもの未来部会 自然環境・教育・文化・芸術・スポーツ・子ども福祉など	子ども	子育て支援センター、プレイセンターがたくさんあり、子どもを遊ばせる場所の選択肢がある。	主婦と子どもがランチのできる場所が少ない。また、その情報を信じて行っても子どもの受入を行っていない店舗などがある。一方で母親の利用マナーにも問題がある。
		子育て支援等が充実している。	黄金南は人口が増加傾向にあるが、夜になると暗く、部活帰りの子どもなど防犯の面で不安に思う。
		妊婦講座などは良い取組だと思う。お父さんの参加率も比較的多い。	「市民力」が弱いのでは？親同士の連携力が不足しているように思う。
			親同士の連携力が不足しているため、個々の親が利害を超えて繋がれない。
	教育	小中学校でやっている朝の10分間読書は良い取組だと思う。新しいものの見方、考え方が身につく。	中学時代の部活で、農村地帯で通学バスが休みで通うことが困難なため辞めていく人が多いことがあった。
		恵庭市は、教科書のほかに副読本（社会の）があるので、そこで恵庭ならではの地域力としてコミュニケーション力を身につける。	島松の5町内の中で島松仲町は一番人口が少なく子どもの人数が減少している。
			恵庭のまちは大きくもなく小さくもないため、親同士の連携ができていない。
			無知なママにも教えてくれる何か（場所・情報など）が欲しい。
	文化	主婦のグチを意見にして取り上げる。恵庭はそれができるまちである。	母親のマナーが悪いことで子どもOKの店舗ができ難いのではないかと感じているが、母親としての一般常識が不足していて、それを教えてくれるところがない。
		まちの規模が大きすぎずちょうど良いため、個人の意見が通りやすい。	コミュニケーション力の低下。顔を見て話やコミュニケーションをする機会が減っている。人の反応を見ながら話すことができなくなっている人が多い。
		ブックスタート事業などをはじめ、施策面でしっかりしている。本のリサイクル市や読み聞かせなど（黄色いエプロンの会）の取組もある。	子ども教育でコミュニケーション力をつける必要がある。意見をどう述べるかが必要なこと。
		取組などについて広報、新聞などで特集をするようにしたらよいと思う！	コミュニケーション力やスキルを備えることが必要。また、意見を言うだけでなく、相手を受け入れる力も必要。
	スポーツ 生活環境 自然環境	イベントをやると団結力が生まれる。これが大事であり、継続していく力も必要。	コミュニケーションの力→その基礎になっている町内会の位置づけや役割は重要。
		「食育」、「本を読む」始まったのは前市長の時代で、良い種を残してくれた。	町内会って何？ということの説明する、周知することを市で取り組んでもらいたい。
		図書館の利用率が高く、対応もとても親切。また、新刊など買わずに図書館で借りて読むことができる。	町内会の役割や機能を分かっていない人が多い。
		島松駅前通りで開催されるなご祭りには、パワーがすごく驚くほど人が集まる。	引っ越してきたら町内会長に挨拶に行くなどの良いしきたりがあったが、それを教えてくれる人が少なくなってきたため、町内会との関わりが希薄になってきている。
その他		町内会（自治会）の名前を変更し、タウンコミュニティ〇〇（TCO）会などにしてみると良い。	地域によって町内会の取り組みの違いがあり、意見があっても上がってこない。
		島松はまちの結束が強いので、どこか他の地域に頼る、ということがあまりない。	いろいろな市民活動があるが中身が分からない。
		若者の集まる新しい部会をつくる。	世話好きなおばさん（しきりばあさん）が昔はいたが、今はなくなった。
		島松では町内で競う公民館運動会を継続して58回開催し、大変賑わっている。	非常に有名ななご祭りがあるにも関わらず周知されていない、見ていない人が多い。
		道路が広い、景観が美しい、ガーデニングのまち。	ママの力や声→町内会へ反映→商業へと活かすことができる。経済の基本的な仕組みでもある。
		恵庭に住みたい人が多い。	地域差もあるだろうが、町内会の集まりの雰囲気は若者が発言できる雰囲気ではない。
		交通の利便性がよく、札幌も通学圏に入る。	子どもができる前の主婦は、出会いの場所がなく孤独を感じている人が多いと思う。
		新千歳空港が近く便利。	バスは走っているが、不便で車がないと生活が大変。
		消費→流通にも声が直接届きやすい地域の特徴があると思う。	交通の利便性が良いため、札幌からも通えてしまうため住んでもらえない。
		札幌に比べると空間がゆったりしている。	東京までの利便性が良いがそれをどのように繋げていけるかが問題である。
		医療施設関係や図書館などが充実している。	島松仲町は、老人が増加している恵庭市の縮図のような地域。個人経営でやっている食堂などが少ない。
		病院・介護施設の待ち時間が少ない。	病院や図書館など恵まれているものがある一方で、そうでないものもある。
		お年寄り夫婦が亡くなったところ（土地）に若い夫婦が入ってくるという良い流れが少しある。	恵庭市はどこにお金を使って、どこを人口を増やしていきたいのか？が分からない。
			子どもの数を増やしていかなければいけないし、高齢者も手厚くしていかなければいけない、どっちつかずの状態にあると思う。
			人口規模から見ると商圏ができていないまちである。人口が8万人以上になれば商圏ができると言われており、そのような状況になれば恵庭は変わってくる。
			健康で年をとっても病院にかからずにいられる環境づくり（個人の意識）が必要。





恵庭市の「目指す10年後の姿」に向け、重視すべき分野・キーワード

第3回ワークショップのまとめ

(第5期) 恵庭市総合計画

第3回ワークショップでは、第2回目に共有した、各部会担当分野ごとの「強み」「弱み」を再確認した上で、「10年後の恵庭市」に向けて重要視していくべき分野や取組について、具体的に何をキーワードに、どのようなことに重点的に取り組んでいくべきなのか、意見交換をしました。

新しい総合計画の策定に向けて

(平成28年度～)

各部会で得られたキーワードやアイデアを以下に示します。

①安心・安全部会

☆ 市民の横連携づくり

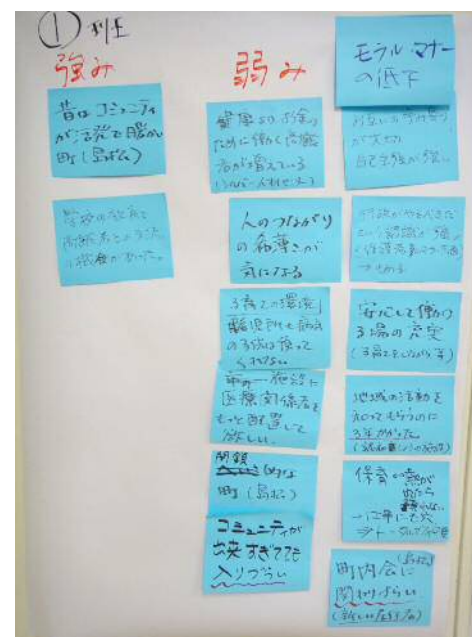
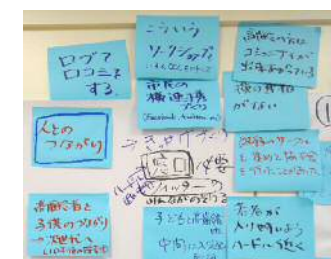
- 市民が誰でも覗ける「ツイッター」のような窓口が必要
- ロづてやロコミでつながりを作る
- 高齢者の方はコミュニティが出来上がっているが、若者でも入りやすいようにハードルを低く下げることが重要
- 「窓口(ツイッター)」だけでなく、顔が見えるワークショップも開催すべき
- “恵庭市だけ”でPRするには知名度が乏しいが、キャラクターの著作権の問題など、弊害が多い

☆ 人のつながりを大切にする

- 子供と高齢者等の中間に入り込む取組が必要である
- 高齢者と子供がつながりを持ち、次世代へ続けられるように意識する必要がある
- 高齢者を近所の人たちが支え合い、安心して生活できるまち
- 子育ての後は親の介護といった一連の流れを、不安なく過ごせるようにする必要がある
- 最初は自分のちょっとした勇気やきっかけが必要
- 面白そうだと興味を持てるような情報の発信が大事
- 町内会など既存コミュニティに新規に入るためには、人づてに入りやすい道筋があるとよい

☆ 総合的な支援体制が必要

- 一般市民の活動をより円滑にするためには、行政の協力が大事
- 医療体制の伴った子育て支援施設の整備(保育園での看護師募集など)
- きっかけづくりにチャレンジアップを募集してみてもどうか
- 地元の商業施設は、地元の人たちが、自分達で育てたんだという意識が大事
- 地元の商業施設が長く続くためには、地元の人たちの支え・愛着が必要
- 各町内会に消火器を常備して、近所の災害時にも駆けつけられるよう準備しておく





恵庭市の「目指す10年後の姿」に向け、重視すべき分野・キーワード

第3回ワークショップのまとめ

(第5期)恵庭市総合計画

新しい総合計画の策定に向けて

(平成28年度～)

②希望と活力部会

☆ 都市のブランディング

- 都市のブランディングは住む、食べる、花、環境等、全てにつながる。
- 『花のまち』『パンのまち』は市民が作ったブランドである。

☆ 恵庭の事を知り、教える

- 恵庭市民が市の事を知らない。
- パンはもしかしたら道内NO.1かもしれない。
- 『花と暮らし展』でお昼をセットにしたツアーをしたら、全国から人が来るが市民は知らない。
- 『北日本食品の漬物』は恵庭で作られています、等、PRするチャンスは結構ある。
- 市民同士の色々な接点を活用し、市民が定期的にまちの魅力をPRしていく。
- 市民が誰でも利用できる、『PRセンター』のようなものがあるといい。
- 市民の口コミで広める。
- 「知る」から「教える」にしていく
- 普通の市民がやる『もてなし』が、これからの観光地のあり方になる。

☆ 道内外の学生・若者が参加・体験・滞在する機会を増やす

- 若者・学生は恵庭に魅力を感じていないから、恵庭を調べないで、札幌に行ってしまう。
- 公園づくりで学生のWSをやったら、関心が高まり、何度も訪れるようになった。
- 『恵庭バーガー』は文教大学の学生が中心になって市内企業と共同開発した。
- キャンドルナイトも学生が手伝いに来てくれるようになった。
- まずは参加してもらうことが大事。
- インターンシップを強化し、若者に恵庭の魅力を体験参加してもらう。
- TV等のメディアを利用すべき。(例:タカシ牧場で放送された村上牧場のキャンドルナイトには駐車場からあふれる程の人が来た。)

☆ 恵庭に住んでもらう

- 恵庭に住んでみたいと思えるまちづくりが重要。
- 恵庭に住んでもらうために家賃を減らし、そのかわりボランティアに参加してもらう。

☆ 医療・安心で他地域から人を呼び込む

- 病院の近くにホテルがあるので全国から人がお見舞いに来る。
- 静かで環境が良い立地なので、観光も兼ねることが出来る。
- 救急医療は市内で対応出来、他地域からも受け入れられていたことがあるため、安心感がある。
- 産婦人科等の市内に足りない病院を近くに充実させればもっと安心になる。
- 医療地区にホテルもセットにすれば道内外からの利用も高まる。
- 恵庭には若者や学生が年を取った時、戻ってくる。
- 医療の充実に住む人にとっても安心でまちの活性化にもなる。

☆ 行政にお願いしたいこと

◎ 都市基盤

- 都市基盤は行政が主体
- 人の集まる場所に注目した交通網

◎ 情報発信

- 広報で恵庭の『1番』をPRする。恵庭は、広報で賞を獲得している。
- ホームページを活用しPR
- 市民検定のような地元を知る仕組み、勉強したことを広める仕組みをつくる
- 道の駅の『インフォメーション』担当者は、恵庭の花について勉強・研修等して窓口の仕事をする。





恵庭市の「目指す10年後の姿」に向け、重視すべき分野・キーワード

第3回ワークショップのまとめ

(第5期)恵庭市総合計画

新しい総合計画の策定に向けて

(平成28年度～)

③子どもの未来部会

☆ コミュニケーション力・住民同士の結びつきが重要

- ◎ 子どもを育てるために大事な世話焼き役がいるまち
- ◎ 子どもをはじめ大人たちもコミュニケーション力を学び、高めることができるまち
- ◎ 市民の距離が近いまち・市民が助け合うまち
- 子どもへの教育や生活を通じて、大人や高齢者も一緒になって恵庭のまちのことを考える・話し合う場づくりが必要
- 子どもと大人が一緒になって恵庭のまちについて考える場づくり
- 様々な目的やテーマごと、将来のことについて話し合う場
- 子どもに、恵庭のことをどう考えているか？を聞き出す・話し合う
- 楽しい取組・イベントに合わせて、話し合える場
- 本音を語ることができ、各世代(特に子ども同士)が、双方向での意見交換できる場
- 各々の立場で、それぞれの役割や分担を決めて取組む
- 自然とコミュニケーション力が身に付き、住民同士が一步踏み越えて、交流が生まれ、距離が近くなるまち

☆ こころの豊かさや満足度を得られる豊かな暮らしを目指す

- ◎ 郷土愛を育むための取組を行うまち
- 生活コストが低くて、満足できるといった住環境が望ましく、それを明確に強みにしていく。
- 子どもたちに好きなことをさせてあげられる環境づくり
- 子どもの頃から恵庭の様々なことを学習、理解する場を提供し、結果として郷土愛につながり、他の人にも話すことができる

